**主 催**　愛知県

**後 援**　愛知県市長会
愛知県町村会
愛知県商工会議所連合会
中部経済同友会
愛知県都市計画協会
中部デザイン協会

**協 賛**　(公社)愛知建築士会
(公社)愛知県建築士事務所協会
(公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会
(一社)愛知県建設業協会
(一財)愛知県建築住宅センター
(一財)東海建築文化センター
愛知県建築技術研究会

愛知県

**愛知県建設部公園緑地課**　〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
TEL:052-954-6612(ダイヤルイン)　MAIL:koen@pref.aichi.lg.jp

ART DIRECTION + DESIGN　高柳 新・岡村 香(CAMP inc.)

第22回

# 愛知まちなみ建築賞

## 表彰作品集 2014

AICHI MACHINAMI KENCHIKUSHO

## 愛知まちなみ建築賞について

愛知県知事
大村秀章
Hideaki Omura

愛知県は、魅力的な地域づくりのため、良好な景観形成が必要であるという認識のもとに、平成５年度に「愛知まちなみ建築賞」を創設しました。

本賞は、地域における新しい建築文化の創造に寄与しているものや、地域のまちなみに調和し魅力的な景観の形成に寄与しているものなど、社会的貢献度の高い建築物やまちなみを表彰し、魅力ある地域環境の形成を図ることを目的としており、早くも22回目を迎えております。

今回は、74作品の応募をいただきました。これらの作品の中から、選考委員会で厳正かつ公平な審査を重ね、最終的に7作品が「愛知まちなみ建築賞」を受賞する運びとなりました。ここ数年、応募作品数は減少傾向にありますが、受賞作品はどれも良好な景観を形成し、魅力ある地域環境の形成に貢献している建築物やまちなみとして高く評価できるものばかりでした。

今回の受賞作品は、まちなみと内部空間の連続性を意識して都市のパブリックスペースを演出したもの、隣接する建築物や周辺環境に対して景観上の配慮を行いながら歴史や環境と共生した風景を生み出したもの、庭を外部にひらくことで住宅地に緑ある風景と余白を生み出したもの、創建当時の歴史的町並みを蘇らせ、保存と活用を実践しているものなど、いずれも個性豊かな、社会的貢献度の高い作品でした。これらの受賞作品がこれからも多くの人々に愛され、また地域の魅力ある景観の形成に寄与していくことを強く願っています。

最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ、深く感謝申し上げます。今後とも県民の皆様と連携して魅力と潤いのある地域づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

### 受賞作品（50音順）

01 愛知県歯科医師会館 ［名古屋市中区丸の内］
02 愛知県立芸術大学音楽学部校舎 ［長久手市岩作三ケ峯］
03 有松に生きる家 棚橋家 ［名古屋市緑区有松］
04 志賀の光路 ［豊田市志賀町］
05 都市にひらいていく家 ［名古屋市瑞穂区十六町］
06 名古屋東京海上日動ビルディング ［名古屋市中区丸の内］
07 穂の国とよはし芸術劇場 ［豊橋市西小田原町］

練り込み技法による記念銘板
作／陶芸家 水野教雄



## 選考基準

良好なまちづくりを進めていくためには、
建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、
一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、
募集条件に適合しているもののうち、
良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、
良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、
次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

### 1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。（以下例示）

- 新しい地域景観の形成を先導し、モデルとなるもの。
- デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
- 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。

### 2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。（以下例示）

- 地域の風土を生かし、新しい地域文化を創造しているもの。
- まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
- 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。

### 3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。（以下例示）

- 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
- 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
- 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。

### 4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

## 選考経過

| | |
|---|---|
| 推薦・応募対象 | 愛知県内で、平成21年4月1日から平成26年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準に該当するもの。 |
| 推薦・応募期間 | 平成26年7月1日から平成26年8月20日まで |
| 推薦・応募総数 | 76通（74作品） |
| 第1回選考委員会 | 平成26年9月4日　一次選考を行い、17作品を二次選考対象とした |
| 第2回選考委員会 | 平成26年10月27日　二次選考を行い、7作品を選定 |
| 表彰式 | 平成27年1月30日 |

## 選考委員 （順不同／敬称略／●印は選考委員長）

- ● 伊藤恭行　名古屋市立大学教授
- 生田京子　名城大学准教授
- 北川啓介　名古屋工業大学大学院准教授
- 武藤　隆　大同大学教授
- 村山顕人　東京大学大学院准教授
- 森　真弓　愛知県立芸術大学准教授
- 廣瀬高保　公益社団法人愛知建築士会会長
- 朝岡市郎　公益社団法人愛知県建築士事務所協会会長
- 水野豊秋　公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会地域会長
- 祖父江隆弘　愛知県建設部建築局長

## まちなみ建築賞総評

愛知まちなみ建築賞への応募作品が減っている。応募作品数については平成23年度が116作品、24年度が98作品、25年度が91作品で、今年度は74作品となっており、大きく数を減らしている。最盛期には159作品の応募があったことを考えると残念な傾向ではある。とは言え、応募数と作品のクオリティには必ずしも相関があるわけではない。事務局から応募数の報告をうけた当初はやや心配もしていたが、内容的には一定以上のクオリティは保たれており十分に審査に耐えうる作品が多かったように思う。応募作品が減少している原因の一つに、近年、東海地区において様々な建築賞が創設されてきたことがあげられる。愛知建築士会の「建築コンクール」やJIAの「東海住宅建築賞」など比較的規模の小さな建築を対象とした賞が相次いで創設されたため、応募者側が作品の性格によって応募する賞を選択するようになってきたのではなかろうか。このような傾向は健全なことであって、それぞれの賞のもつ特徴を明確にし、顕彰制度としての役割を果たしていくことが重要であると考える。その意味で「まちなみ」という視点から建築を評価する本賞の存在は今後も重要であるし、主催者である愛知県や審査委員は高い見識を持って運営・審査にあたるべきだという思いを強くした。

県内各地から74作品の応募をいただいた。この中から愛知県の「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」に適合しないもの11点を除外して、63作品を審査の対象とすることとした。例年、数点の作品がこの条例に適合しないとして選考から外さざるを得ないことが続いている。次年度以降は条例に該当する用途・規模の作品は適合証を取得済みであることが応募条件となるので、このようなケースは少なくなるものと思うが、竣工引き渡し後に想定とは異なる用途での使用がなされる場合もありうる。このような点も含めて、次年度以降の応募者には十分な注意をお願いしたい。地域ごとでは、名古屋市が31点、尾張地域12点、西三河地域13点、東三河地域7点となっている。1次選考では、この中から17点を2次選考対象作品とした。10月27日に行われた2次選考では、作品ごとの詳細資料・図面ならびに現地撮影した映像資料を用いて選考委員による討議を行い、7作品を選定した。

受賞した作品については各委員の選評をお読みいただきたい。個人的には、「名古屋東京海上日動ビルディング」が強く印象に残っている。大規模な建築は周辺に与える影響が大きい。本計画の足元まわりのランドスケープは快適な人の居場所を創り出しており、都市におけるパブリックスペースを提供することに大きく貢献している。全く利用されない公開空地を持つオフィスビルなどが少なくない中で、この試みは高く評価されてよい。無いものねだりをすれば、建築本体の低層部との空間的・機能的関連があれば更に充実した都市空間となっていたであろう。とは言うものの、このような真摯な取り組みの事例が示されることで、都心部に良質なパブリックスペースが増えていくことを期待したい。

名古屋市立大学教授
伊藤恭行
Yasuyuki Ito

# 01 愛知県歯科医師会館

あいちけんしかいしかいかん

名古屋市中区丸の内

この建物は名古屋のメインストリートである久屋大通に面して建つ歯科医師会館である。敷地北側には江戸期の会所地でもあった歴史ある寺院、南側には小さな木造民家、東側には緑量の多い都市的スケールの久屋大通が位置し、異なったスケールや佇まいに対して景観上の配慮が求められる敷地条件である。道路面だけでなく隣地面も含めて周辺との関係を丁寧に読み解き、熟慮してつくられた溶融亜鉛メッキによる彫りの深い格子状のファサードは、大きなボリュームをヒューマンスケールに落としつつ、緑陰とも一体となることで、この界隈においてひときわ歴史や環境と共生して見える風景を生み出しており、審査では高い評価を集めた。

狭小道路に面する南側にはホールを持つ低層棟を、久屋大通に面する東側には会議室中心の高層棟を配することで、それぞれの街区に合わせたボリュームとなる配置計画となっており、都心のL型敷地への景観的な回答ともなっている。

この界隈は名古屋市の都市景観形成地区に指定されているが、道路に面したファサードだけに注力する建物が多い中で、隣地境界面までも含めて力を注がれていることは高く評価でき、この界隈の風景の在り方にも一石を投じる建築である。

◎ 武藤 隆 Takashi Muto

1,2,3 photo / スタジオ・ムライ(2013)

| | | |
|---|---|---|
| 建築主 | | 一般社団法人愛知県歯科医師会 |
| 設計者 | | 株式会社山下設計中部支社 |
| 施工者 | | 株式会社フジタ名古屋支店 |
| 概要 | 主要用途 | 事務所・博物館 |
| | 構造 | 鉄骨造<br>一部鉄骨鉄筋コンクリート造 |
| | 階数 | 地下1階 地上6階 |
| | 敷地面積 | 1,301.38m² |
| | 建築面積 | 1,151.88m² |
| | 延床面積 | 6,212.70m² |

# 02 愛知県立芸術大学音楽学部校舎

あいちけんりつげいじゅつだいがくおんがくがくぶこうしゃ

長久手市岩作三ケ峯

愛知県立芸術大学音楽学部校舎は、2011年に制定されたキャンパスマスタープランに基づき、施設整備を行っている中での、最初の新築建築物である。約50年前に吉村順三氏によって設計された、地形と調和した配置計画が生み出す景観を維持しつつ、既存の建築群との調和を図ることが求められた。

本建築物は、谷に向かう下り斜面を活かし、山の形に沿うように展開されている。大学正門から坂を登り切ると、管理棟越し正面に現れてくるが、ヴォリューム感が抑えられていて圧迫感を感じさせない。外装も、素材そのものの質感を活かしており、環境との調和が図られている。入り口に近づくと、森の中にせり出すような建物全体が見えてくるが、天井までガラスを使用した吹き抜けのロビーが、森への視界を確保している。棟の隙間やガラス越しに緑への視界が開けることで、自然との繋がりを意識させる。ここには、豊かな自然と対話しながら音楽に向き合うことができる、創造的環境が提供されている。

1,2 photo / エスエス名古屋(2013)　3 photo / Kouji Okamoto [Techni Staff](2014)

◎ 森　真弓　Mayumi Mori

| | | |
|---|---|---|
| 建築主 | 愛知県 | |
| 設計者 | 株式会社日建設計 | |
| 施工者 | 清水・名工・松原特定建設工事共同企業体 | |
| 概　要 | 主要用途 | 学校(大学) |
| | 構　造 | 鉄筋コンクリート造 |
| | 階　数 | 地下1階　地上3階 |
| | 敷地面積 | 408,059.2m² |
| | 建築面積 | 3,935.8m² |
| | 延床面積 | 5,889.79m² |

# 03 有松に生きる家　棚橋家

ありまつにいきるいえ　たなはしけ

名古屋市緑区有松

この建物は、名古屋市の有松町並み保存地区に建つ国登録有形文化財で、明治初期に建てられ現在の所有者は二代目である。初代は絞りの店であり、その後に無医村であった有松に医院として所有者が移ったが現在は住宅となっている。所有者のこの建物に対する思いは評価できるものであり、今回の改修の発端は所有者が屋根の葺き替えについて名古屋市に相談したことから始まり、耐震改修を含め建物全体の改修を進めるにあたり、名市大の溝口教授、なごや歴まちびとの会、名古屋市歴史まちづくり推進室などで構成された小委員会が立ち上げられ、3年間にわたる改修が成し遂げられた。改修にあたっては建築当時の時代考証、この建物の歴史などについても充分に調査し出来る限り原形に修復し、やむなく替える部分については、原形に戻せるよう配慮がされている。

外観は旧東海道の面影を残し、内部は初期の医院に蘇らせている。瓦も替えるのではなく充分な調査のうえ、不足する瓦については二度焼きをし、従来の瓦に同化するよう配慮がされている。又、銅製の雨樋も模型による検証、そのほか、鬼瓦、有松の風習である鍾馗様、燕の飾瓦などが細部に検証されている。玄関戸などは昭和初期にアルミサッシに取り替えられたが漆喰壁、格子と雰囲気を感じることができる。

文化財であり、典型的な有松のスタイルである建物を多くの人々が細部にわたる検証により過去から後世に受け継がれる作品であるとともに有松の町並み保存に多いに貢献していることが高く評価された。

◎ 朝岡市郎　Ichiro Asaoka

1,2,3 photo / アーキフォトKATO 加藤敏明(2013)

| | | |
|---|---|---|
| 建築主 | 棚橋恭子 | |
| 設計者 | モモアーキテクツ　三井富雄 | |
| 施工者 | 株式会社魚津社寺工務店 | |
| 概　要 | 主要用途 | 住宅 |
| | 構　造 | 木造 |
| | 階　数 | 2階 |
| | 敷地面積 | 1,155.00m² |
| | 建築面積 | (改修部分)256.54m² |
| | 延床面積 | (改修部分)334.92m² |

# 04 志賀の光路

しがのこうろ

豊田市志賀町

| | | |
|---|---|---|
| 建築主 | 大塚隆盛 | |
| 設計者 | 佐々木 勝敏 | |
| 施工者 | 株式会社井上工務店 | |
| 概　要 | 主要用途 | 専用住宅 |
| | 構　　造 | 木造 |
| | 階　　数 | 地上2階 |
| | 敷地面積 | 225.48m² |
| | 建築面積 | 67.64m² |
| | 延床面積 | 106.54m² |

将来的には世帯数減少により空き家や空き地が増加する郊外住宅地をいかに秩序よく低密度化・緑化し、高い生活の質を享受できる緑豊かな次世代の郊外住宅地へと再生するかは日本の都市の共通課題である。たとえ空き地を住民が共同管理する有効な仕組みができたとしても、塀や生垣で囲まれて閉鎖的な敷地に住宅を建てる従来の設計手法では、空き地も孤立してしまい、管理が行き届かなければ雑草が繁茂するような状況となる。住宅地の中に空き地が多数発生することを前提とした住宅設計手法が求められている。

本作品は、そのような住宅設計手法の1つの有効なモデルとして、評者を惹きつけた。この手法が一般的になれば、建物と街路の間の緑地が連続し、また、空き地が発生してもそれを緑地として適切に管理する動機が高まり、緑豊かな住宅地を形成することができる。建物や塀が張り出し、駐車場が目立つ現在の街並みも一変する。このような手法では、住宅のプライバシーの問題が気になるが、設計者は、客室・主寝室・トイレ・階段の配置とラウンジの窓の取り方により、その問題を見事にクリアしている。これからの日本の郊外住宅地の前向きな再生を促す先導的な作品である。

◎ 村山顕人 Akito Murayama

# 05 都市にひらいていく家

としにひらいていくいえ

名古屋市瑞穂区十六町

「都市にひらいていく家」は、道路に面したガラス張りで透明な二階建てと、プライベートなスペースとなる三階建ての二棟からなり、細長い敷地いっぱいに離されて生まれた中庭に植えられた大きな木々を縫うように三本のスロープがあり、二棟の各階をつないでいる。

住まいを道に開こうと考えたとき、如何にして緩やかなバリアーを形成するかがポイントになると思う。パブリックなスペースはガラスの箱で思いっきりオープンとし、奥のプライベートなスペースは、道路からの距離の確保と、1mほどの段差とあいまって、両隣とも共有する森の木々が外からの視線をやさしく遮り、オープンで開いていながら眺望や光も風も確保されている。また四方透明なガラスの箱とピロティを通して奥に広がる木々の風景が、通りを歩く人たちに意識され、近隣の人々とのコミュニケーションが増えることが期待される。地域に魅力と潤いと共に変化を与える空間が創出されており、まさに都市に開かれた住宅となり、地域環境の創造に寄与している。

◎ 水野豊秋 Toyoaki mizuno

1,2,3 photo / 栗原 健太郎(2013)

| | | |
|---|---|---|
| 建築主 | 山下秀樹 | |
| 設計者 | 栗原 健太郎+岩月美穂<br>studio velocity 一級建築士事務所 | |
| 施工者 | 創SHINKO株式会社シンコー建創 | |
| 概　要 | 主要用途 | 専用住宅 |
| | 構　　造 | 鉄骨造 |
| | 階　　数 | 地上3階 |
| | 敷地面積 | 148.16m² |
| | 建築面積 | 53.75m² |
| | 延床面積 | 105.01m² |

# 06 名古屋東京海上日動ビルディング

なごやとうきょうかいじょうにちどうびるでぃんぐ

名古屋市中区丸の内

この建物は名古屋の中心市街地にある高層ビルで、オフィスと商業施設の機能をもつ。ファサードは、高層部（オフィス部分）と低層部（商業施設、オフィスエントランス）に分割してデザインされている。その切り離しにより低層部を細かく分節したブロックとすることが可能になり、多様なブロックを組み合わせて表情豊かな形態が実現している。低層部の小スケールなデザインに加えて、公開空地も緑の樹木が気持ちの良い広場として周到にデザインされている。それにより歩く人に配慮された親しみやすい空間が創出されていることが評価された。オフィスビル計画において、ともすれば巨大なオフィス空間のスケールからの連続として足元をデザインし、それが人のスケールに馴染まない無機質な歩行者空間を生む原因となりがちである。本計画はそれに対して配慮されており、まちなみと違和感なく、スマートに人のための場を提供しているように思われる。

◎ 生田京子 Kyoko Ikuta

1,2,3 photo／株式会社 川澄・小林研二写真事務所（2013）

| | | |
|---|---|---|
| 建築主 | 東京海上日動火災保険株式会社 | |
| 設計者 | 株式会社三菱地所設計一級建築士事務所 | |
| 施工者 | 名古屋東京海上日動ビルディング<br>建替工事共同企業体 | |
| 概　要 | 主要用途 | オフィス、店舗、<br>多目的室、ギャラリー |
| | 構　　造 | 鉄骨造<br>一部鉄骨鉄筋コンクリート造 |
| | 階　　数 | 地下2階　地上15階　塔屋1階 |
| | 敷地面積 | 4,207.90m² |
| | 建築面積 | 2,329.36m² |
| | 延床面積 | 36,018.58m² |



# 07 穂の国とよはし芸術劇場

ほのくにとよはしげいじゅつげきじょう

豊橋市西小田原町

1 photo／永石秀彦［永石写真事務所］（2013）

豊橋市は東三河地域の中心にあり38万人弱の人口を擁している。かつて穂の国とよばれ三遠南信地域の中核都市として発展してきた。葦毛湿原を始めとする豊かな自然にも恵まれており、大正14年に開通した路面電車は低床式車両（ほっとラム）を導入し、市電のある風景がまちの景観として定着している。豊橋市は中核都市に見合った公共施設の建設を進めており、最近ではこども未来館「ここにこ」（平成21年度第41回中部建築賞入選）、保健・医療・福祉複合施設「ほいっぷ」（平成22年オープン）など、新しい時代を見据えた施設作りに力をいれている。今回も豊橋のまちなみの規模に合った施設作りを目指しており、線路脇の幅の狭い敷地といった不利な立地条件を活かし、建物の特徴として取り込むことに成功している。豊橋駅から線路沿いに伸びるペデストリアンデッキで人を導く外部動線が、そのまま施設内のロビー空間（交流スクエア）を経て各部屋・ホール等をつなぐ内部動線に吸収される様が明快で解りやすい。屋上にはホールを覆うオーロラ状の外壁があり、ライトアップされた夜景は十分に新しい豊橋のシンボルと成り得る。

◎ 廣瀬高保 Takayasu Hirose

| | | |
|---|---|---|
| 建築主 | 豊橋市 | |
| 設計者 | 香山壽夫建築研究所・<br>大成建設設計共同企業体 | |
| 施工者 | 大成・豊田建設工事共同企業体 | |
| 概　要 | 主要用途 | 劇場 |
| | 構　　造 | 鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造 |
| | 階　　数 | 地上4階 |
| | 敷地面積 | 7,612.80m² |
| | 建築面積 | 4,221.68m² |
| | 延床面積 | 8,036.59m² |